

【別紙様式2】

千葉県県土整備部所管公共事業事前評価自己評価調書

事業名	一般国道356号（東庄銚子バイパス）
担当課名	道路計画課

1. 事業の概要

(1) 事業の目的	一般国道356号は、銚子市から我孫子市を連絡し、千葉県北部地域の経済活動や観光産業等を支える幹線道路である。利便性の向上や県内外との交流の活性化を図るため、圏央道などの高速道路インターチェンジとのアクセス強化に向け、4車線化やバイパスの整備を推進している。		
(2) 事業の内容			
①事業期間・時期	事業期間：10年間		
②事業規模	延長：8.6km 幅員：9.0m（2車線）		
③事業費	全体事業費：150億円		
④事業位置	東庄町新宿～銚子市小船木町		
(3) 指標			
①事業目的	②指標	③現状値	④目標値
住環境・安全性の向上	一般国道356号 現道交通の削減	103百台/日	19百台/日 (84百台削減)
産業面の効果	所要時間の短縮 銚子市街地～佐原 香取IC	57分	48分 (9分短縮)
救急医療活動の支援	既成市街地から救急 基幹病院（銚子市街 地～県立佐原病院） への搬送時間短縮	61分	49分 (12分短縮)

2. 県が実施する必要性

(1) 現状及び課題	<p>【現状】</p> <p>香取・東総地域は、全国トップクラスの農業産出額となる本県において、県内最大の農業産出額を誇るとともに、水産業では、全国1位（令和4年）の水揚量を誇る銚子漁港を擁し、多様な水産加工業が集積する全国有数の水産基地を形成するなど、高いポテンシャルを有している。</p> <p>一般国道356号の死傷事故率については、石出交差点付近において、95.4件/億台キロ（千葉県平均40.2件/億台キロ）であり、大型車混入率は、約16%/12h（県管理平均11.5%/12h）と、それぞれ千葉県の平均を上回る。また、路肩が狭く、歩道がない区間が存在し、歩行者や自転車の安全性に支障がある。</p> <p>救急基幹センターである県立佐原病院まで33分要する地域があり、アクセス性向上が必要である。</p> <p>一般国道356号は、千葉県緊急輸送道路1次路線に指定され</p>
------------	---

	<p>ているが、地域に代替路線となる幹線道路が存在しない。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域的な道路ネットワークが未整備 ・一般国道356号の歩行者や自転車の安全性 ・救急医療施設へのアクセス性 ・災害発生時のリダンダンシー <p>これらの課題解決を図り、地域の産業展開や多様な交流・連携を支えるため、広域的な道路ネットワークの整備が必要である。</p>
(2) 上位政策及び全体計画との関連	<p>一般国道356号は、千葉県広域道路交通ビジョン・計画（令和3年6月策定）において、全国や県内各地との交流や連携の強化、平常時・災害時を問わない安定的な人・モノの流れを確保する「一般広域道路」に位置付けている。</p> <p>また、千葉県道路整備プログラム（令和2年3月策定）において、地域高規格道路や高速道路ICのアクセス強化に資する道路として位置付けている。</p>
(3) 優先度及び適時性	<p>【優先度】</p> <p>一般国道356号は、県北部地域に広域的な道路ネットワークを形成し、圏央道などの整備効果を地域に波及させ、県内外との交流や地域の活性化を図る道路であり、優先度は高い。</p> <p>【適時性】</p> <p>一般国道356号は、これまで香取市小見川から東庄町笹川までの4.7kmが平成21年に供用しており、現在事業中である東庄町笹川から東庄町新宿まで4.0kmの区間は令和5年度に供用予定である。また、令和8年度には圏央道の大栄・横芝間の供用が予定されている。</p> <p>圏央道の整備効果を県北部地域へ波及させ、地域の発展を促進するため、早期に整備を進める必要がある。</p>
(4) 代替案との比較	<p>バイパス区間について、利根川堤防沿い案（現計画案）、地域通過案、地域通過+現道利用案による3案を比較した結果、集落への影響を極力避け、農地の斜め横断を極力回避したルートである現計画が最も優位である。</p>

3. 経済的・社会的効果

<p>○ 国土交通省のマニュアルに基づく一般国道356号の費用便益分析の結果、便益の現在価値化後（基準年令和5年度）の金額は、走行時間短縮便益で193億円、走行経費減少便益は23億円、交通事故減少便益は3億円であり、費用便益比(B/C)は1.8と便益が費用を上まわっている。</p> <p>○ 一般国道356号の全線整備により、以下の効果が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域道路ネットワークの形成 ・住環境、安全性の向上 ・産業面の効果 ・地域間交流・連携の強化 ・救急医療施設へのアクセス性向上による救急医療活動の支援 ・緊急輸送道路ネットワークの強化、リダンダンシーの確保
--

4. 環境に与える影響

本事業の実施にあたり環境影響予測を実施した結果、供用時にはいずれも基準値内の予測値であった。工事实施にあたっては、低騒音及び低振動の工法や建設機械の採用など、周辺環境への影響の配慮に努め、希少動植物の保全措置などを適宜行っていく。

項目	予測結果	基準
二酸化窒素	基準の範囲内	1時間値の1日平均値が0.04~0.06ppmのゾーン内またはそれ以下
浮遊粒子状物質	基準の範囲内	1時間値の1日平均値が0.1mg/m ³ 以下
騒音	基準の範囲内	幹線交通を担う道路に近接する空間の環境基準（昼間70dB、夜間65dB）以下
振動	基準の範囲内	第1種区域の要請限度（昼間65dB、夜間60dB）以下
動物	影響なし	重要な種の生息環境は保全される
植物	影響なし	重要な種の生息環境は保全される
生態系	影響なし	重要な生態系は保全される
景観	影響なし	対象道路の可視の程度は小さく、眺望景観の変化は小さい
人と自然との触れ合い活動の場	影響なし	利用の支障及び快適性の変化が生じない

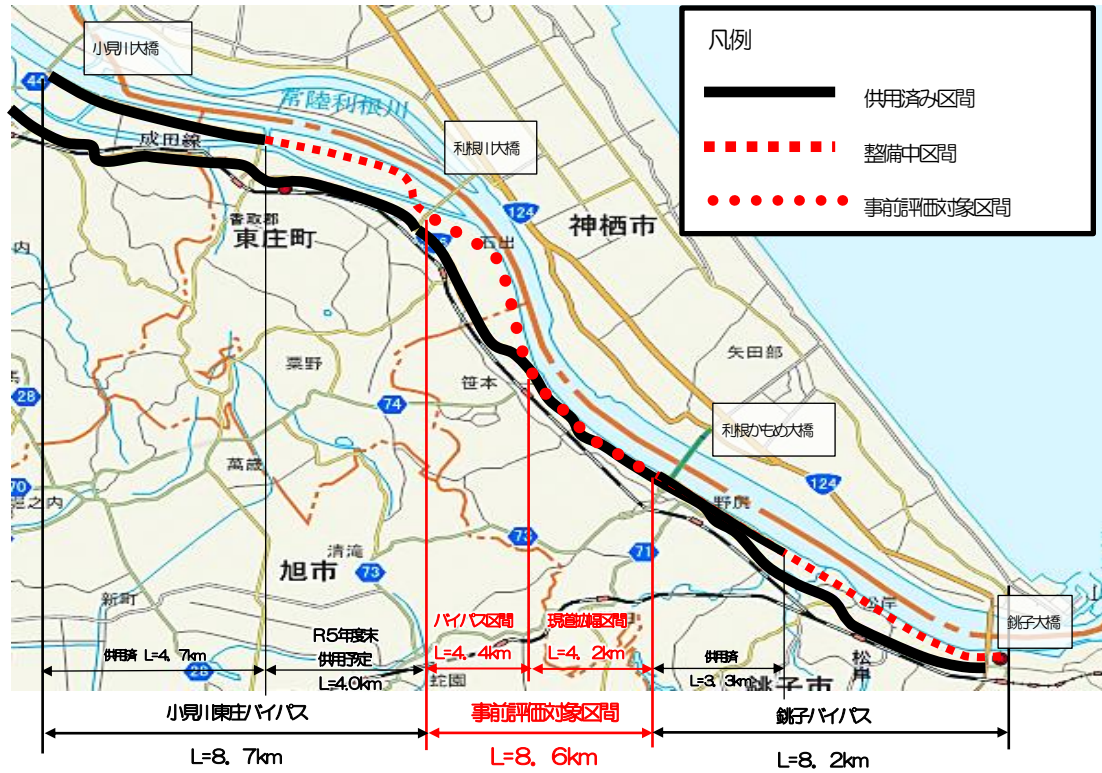
5. 総合的な評価

本事業は、費用便益分析の結果B/Cが1.8であり投資効果が見込めるとともに住環境・安全性の向上、産業面の効果、地域間交流・連携の強化、救急医療活動の支援、地域防災機能の強化が見込まれるため、令和6年度から事業に着手し、早期整備を図る。

事業概要図

事業名	一般国道356号 東庄銚子バイパス	路線又は箇所名等	一般国道356号
-----	----------------------	----------	----------

【計画平面図】



【位置図】



【計画横断面図】

